

06 2022年入島料収受実績

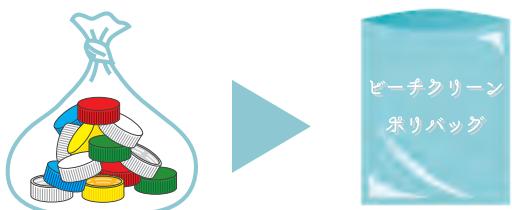
2022年1月～の入島料収受実績は下記のようになります。7月からの観光客増加に伴い若干の回復傾向を見せておりましたが、コロナ以前の数字には遠く及ばず、相変わらず収受率10%前後と大変厳しい収受実績となっております。
今後とも周知拡大に向けたご協力をよろしくお願いします。



お知らせ

ペットボトルキャップの回収にご協力ください

ご家庭で出たペットボトルのキャップを集めるとビーチクリーン用のポリバッグに生まれ変わります



回収ボックスは下記の場所に設置しています。

- ・財団事務所（旧ビジターセンター）・まちなみ館
- ・あいのた会館・いんのた会館・羽山会館

ご家庭で出たキャップのリサイクルにご協力ををお願いいたします。



一般財団法人
竹富島地域自然資産財団

〒907-1101
沖縄県八重山郡竹富町字竹富 207-1
TEL:0980-85-2800 FAX:0980-85-2801
MAIL:info@taketomijima.okinawa

竹富島地域自然資産財団 季刊誌

てーどうん JOURNAL

2023.Feb. Vol.13.



© Maehara Motoo

竹富島では、そんなに遠くない昔。
あまり便利とは言えないけれど
自然体で暮らせる心豊かな時代がありました。

私たちは入島料で、島がいつの間にか失ってしまったもの、
忘れてしまったものを取り戻すべく活動を進めてまいります。

01 ぶらまち竹富探検

美ら島おきなわ文化祭 2022 の一環として、竹富島の成り立ちを知ってもらえるツアー「ぶらまち竹富探検」(10名定員 × 3日間)を開催しました。今回のツアーでは、島の伝承や神話の舞台となった場所など普段なかなか訪れることがない、ディープな場所を上勢頭立人ガイドの解説付きで巡りました。また各所にはQRコードを設置し、スマホからガイド動画が視聴できる新たなシステムにも挑戦しました。参加者からの評判も非常に良く、また開催してほしいという声も多かったため、一過性のイベントで終わらせないことが課題です。



02 藍の刈取り

藍（ヤエヤマキアイ）の刈取りを行いました。刈取った枝葉を樽に入れ2日後に枝葉を取り除き、青みがかった溶液に石灰を混ぜて攪拌します。混ぜる度、色が変化していく、はじめての体験にとても感動と興奮を覚えました。「藍とお話しをしながら、作業に適した日を決める。島の天候、気温で藍の表情が違う」「織物は織るまでが大事。糸や染料に表れる。全てを丁寧に行うことで初めて織ることが出来る」と島仲由美子さんからお話を伺いながら、連綿と受け継がれる伝統織物の精神に思いを馳せながらの作業となりました。



03 漂着プラスチックで海亀キー・ホルダー作り



12/14に行われた竹富小中学校「エシカルショップ」(子どもたちが環境について考えた商品を販売する催し)のため一緒に漂着プラ拾い→選別→洗浄→裁断→成形→組立を行い海亀キー・ホルダーを作成しました。売上は次年度の海洋教育に使われるということです。

04 竹富小中学校 ビーチクリーン



竹富小中学校の海洋教育の一環である、ビーチクリーンにサポート参加しました。今回は島の北東に位置するアイホーシ浜での実施となりました。ゴミの種類ごとに班分けしビーチクリーンを行います。最後にゴミの種類別に量を測り発表を行いました。

05 竹富島由来の粟と小麦

粟や麦は島の祭事に欠かせない伝統作物ですが、島のお年寄りの中には、粟を使った伝統食物の「イイヤチの味が昔とは違う！色も変わった！」と言う意見がありました。そこで財団では農業の専門家の力を借りて調査を行い、現在の竹富島の粟は純粋な在来種ではなく複数の品種が交配、混合していることが分かりました。その結果を基に、茨城県つくば市にある「ジーンバンク（農研機構遺伝資源センター）」に依頼をして、竹富島在来の粟と麦の種子を提供して頂きました。そして今回、在来の種子を使用し、竹富島の小学生とともに「種子下ろし」を行いました。始めに講師（島の有識者）から島の農耕の歴史を学び、その後種蒔きのときに行うニンガイの意味や地面に立てる、「サン結び」の由来なども詳しくお話ししてもらいました。財団で作成した木製のプランターに粟と小麦の種を蒔き、祭祀の供物として奉納できるような育成と収穫を目指します。

